

増長天^③ ぞうちょうてん

増長天は帝釈天（たいしゃくてん）の宮殿のある須弥山の中腹にいて、帝釈天に仕える四天王の一員です。南方を守ることを任務とする、護法神つまり仏教を保護し守る神とされています。

聖徳太子が戦勝を四天王に祈って、のちに四天王寺を建てたことはよく知られています。石像に造られた増長天としては、鹿児島県の隼人塚の石仏が平安時代のもものとして有名です。

また般若十六善神の一員としてまつられることもあります。大般若会するときこの般若十六善神の画像がかかげられるので、つぶさにそのお姿を拝観することができます。このとき持物は杵です。

お姿は刀と矛をもつものと、右手に剣、左手は握って腰にあてているお姿がありますが、当地のは後者です。

県内では、他にはないようです。